

# 文化財 ニュース

22 Winter 2020

## 埋文ニュース

### 清水徳川家屋敷跡の発掘調査

令和2年6月30日に、平成29年(2017)から発掘調査を実施していた清水徳川家屋敷跡の調査報告書が刊行されました。本号では、調査報告書にまとめられた遺跡の様子や、発掘調査について紹介します。



清水徳川家屋敷跡発掘調査の様子(平成29年(2017))

### 清水徳川家屋敷跡について

日本武道館の中道場増築工事に伴って、平成28年(2016)に千代田区教育委員会が実施した試掘調査で初めて発見された遺跡です。

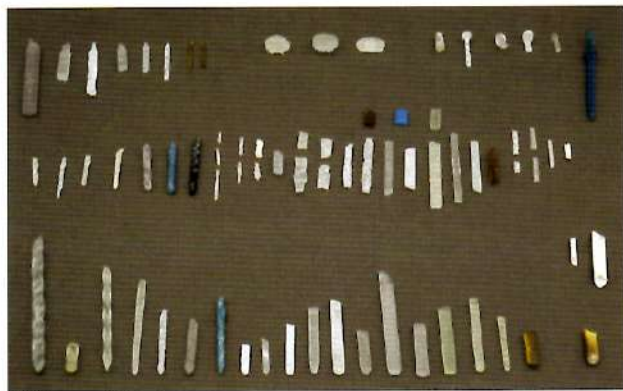
清水徳川家は、御三卿の一つに数えられる家柄で、屋敷地も幕末期においては皇女和宮かずのみやの居所となるなど、

歴史の舞台となった場所でした。明治になると間もなく、近衛歩兵第一・第二聯隊兵舎(竹橋陣営)に姿を変え、宮城を守るシンボリックな建物として当時の市民に広く親しまれました。

# 清水徳川家屋敷跡の発掘調査



【写真1】 清水徳川家屋敷の礎石列（1号遺構）



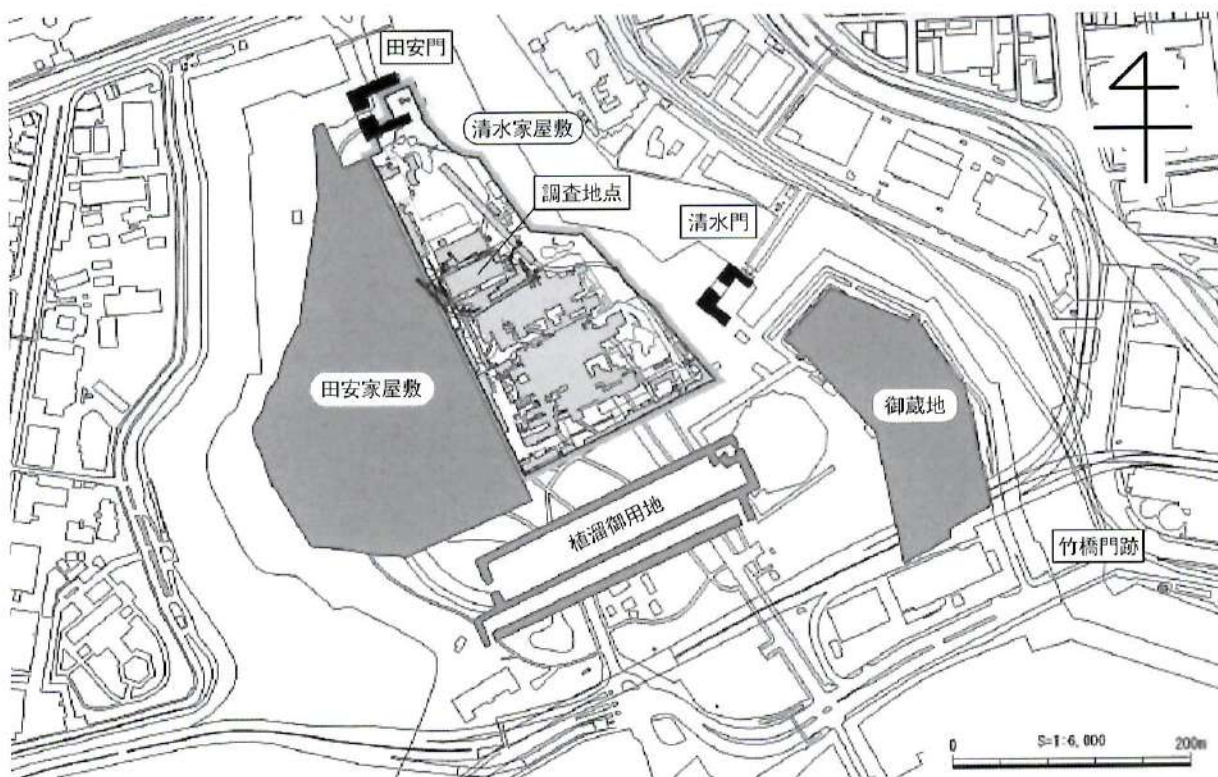
【写真2】 19世紀中葉の遺構からみつけた簀・筭

## なかおく ながつね 発掘された清水徳川家の中奥・長局

清水徳川家は、徳川將軍家を支えた御三卿のひとつで、九代將軍家重の二男重好を家祖として宝暦8年(1758)に創始されました。その屋敷は、北の丸の清水門内に位置し、坪数14,150坪あまりという広大なものでしたが、これまで開発にさらされることが少なかったため、本格的な発掘調査は実施されてきませんでした。

今回の発掘調査では、屋敷地中央よりやや北側のなかおくの一部や長局とみられる遺構が発見されました。長局は屋敷に使える女中の集合住宅で、各部屋が廊下に面して横並びに配置され、廊下の反対側には便所や湯殿も配置されていたことが記録に残っています。発見された遺跡の内、1号遺構は19世紀前葉から後葉にかけて使われた北から2番目の長局の建物跡とみられ、全体が京間※1で東西方向9間、南北方向5間に及ぶ建物だったことがわかりました。建物内の柱は、京間1間または2間の間隔で並んでおり、一人の部屋の短辺だと仮定すると意外なほど狭い空間だったことになります。周辺の石組溝や土坑からは、簀や筭、櫛、煙管など当時の女性の身のまわりの品々が多数見つかりました。

※1 1間=約1.97mとする測り方



【図1】 近世中期以降の北の丸公園の利用の様子

## 御三卿屋敷から皇居護衛の軍用地へ

清水徳川家は、弘化3年(1846)に5代齊彊なりかつが没すると明屋形あきやがたと呼ばれる当主不在の状態となります。明屋形となった屋敷地は、さまざまな政治的な思惑の中で幕末・明治を迎えることになりました。

安政年間(1854~1860)には、講武所開設の候補地として検討されますが実現せず、差し止めとなります。続く文久元年(1861)に皇女和宮かずのみやが江戸城入りする際の一時滞在所として用いられると、翌々年の文久3年(1863)には本丸焼失によって、將軍の仮御殿としても用いられることとなります。さらに慶応元年(1865)には焼失した田安家屋敷の代替としてつくりかえられ、以後清水家の手に戻ることなく明治3年(1870)の火災で焼失し、屋敷としての使命を



【写真4】竹橋陣営から出土した銃弾・薬莖



【写真3】竹橋陣営から出土した磁器碗

終えています。

この屋敷地に注目したのが、当時、西郷隆盛・山縣有朋らによって創設されたばかりの近衛歩兵聯隊です。銀座煉瓦街などの設計で知られるアイルランド人ウォートルスの設計によって建築が始められた竹橋陣営は、明治4年(1871)に主屋が竣工して以来、皇居護衛の要所として戦後まで変わらずこの場所にありました。発掘調査では、清水徳川家屋敷の遺構に重なるようにして、フランス式の煉瓦積み技術を用いた兵舎の躯体が出土しています。躯体に伴う遺構からは、近衛歩兵第一・第二聯隊が使用したものと考えられる「近一」という染付の施された磁器碗や銃弾なども出土しました。

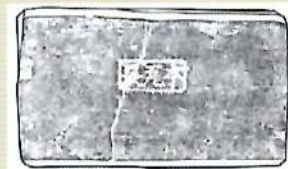
### コラム

#### 竹橋陣営に使われた明治初期の煉瓦たち

竹橋陣営の建設工事が始まった明治3年(1870)は、日本の煉瓦建築にとっても黎明期でした。創建当時からの煉瓦は、練り方のムラから内部に亀裂が入ったり、大きさに誤差があったりして、均質につくれていないものも多く含まれています。

この時期の煉瓦をよく観察すると、小口こぐち(煉瓦の直方体のうちの狭い面)などに刻印が見られることがあります。竹橋陣営でみられた刻印には、「本所横川丸安」や「五ツ目瓦金」など、墨田区本所周辺の地名が多く含まれていました。当時の本所周辺は、江戸川の土を使った瓦の生産が盛んな地域で、瓦職人が多く住んでいたと言われていました。つまり、瓦造りを本業とする人たちが、手作りの煉瓦だと言えます。

東京の煉瓦生産は、この後、明治5年(1872)の銀座大火を画期として、次第に産業へと発展していくこととなります。



【写真5】竹橋陣営の煉瓦刻印

(学芸員 相場 峻)

**期間** 2020年10月20日(火)から  
2021年3月14日(日)

**場所** 日比谷図書文化館 常設展示第V室

2020年度後半のテーマ展は、「2019年の新収蔵資料」と題して、千代田区が日頃から取り組んでいる資料収集活動とともに、新たに収集した資料の一部を紹介しています。ここでは展示の概要や見どころについて解説します。

2019年度寄贈資料一覧表

方法	寄贈者	資料名	員数(点)
1 寄贈	個人	写真(都電)	86
2 寄贈	個人	錦絵(清水屋・長谷川家コレクション)	1
3 寄贈	個人	今川小路共同建築関係資料	22
4 寄贈	個人	雑誌『劇』	6
5 寄贈	個人	絵葉書	143
6 寄贈	個人	写真(麹町周辺)	80
合計			338

### ○新収蔵資料—絵葉書—

今回のテーマ展では、2019年度を受贈資料の中から、私たちにとっても比較的身近な絵葉書資料を取り上げました。新たに収蔵した絵葉書資料は、寄贈者が長年かけて蒐集した143点のコレクションからなります。主に明治から昭和の前半に製作されたもので、千代田区をはじめその周辺区の名所などをとらえた貴重な写真などが掲載されています。展示では資料群の紹介とともに、受入となった理由について紹介しています。

### ○資料の受入

資料を受け入れるかどうかの判断をする際、最も基本的かつ重要な基準となるのは、千代田区の歴史文化に関係する資料かどうかという点になります。ただし、直接関係がない場合でも、すでに収蔵している資料の価値を高める参考資料として活用が見込まれる場合は、状態などを見ながら受け入れることもあります。今回の絵葉書資料では、以下の3点に、資料的価値がありました。

### ○千代田区の資料収集活動

日比谷図書文化館文化財事務室では、これまで多くの資料を収集し、保存や活用に取り組んできました。現在収蔵資料の数は、歴史・民俗・美術資料だけでも4万点を超えています。

資料を集める方法としては、採集や移管など様々ありますが、千代田区の場合、その多くは区民をはじめとした皆様からの寄贈が中心となります。毎年文化財事務室には、寄贈に関する相談が寄せられます。といっても、その全てを受け入れるわけではありません。事前に資料内容を確認した上で、資料の状態を考慮しつつ、千代田区の歴史文化にゆかりあるもの、かつ特に貴重なものを厳選して受け入れます。

昨年度は、6件338点の資料を受贈しました。

#### (1) 千代田区の景観を知ることができる

千代田区は、首都東京の中心地として明治以来開発が繰り返され、特に変化の多い場所になります。またかつての震災や戦災などの災害によって、激変したという歴史的特徴もあります。失われたまちの姿や開発の歴史を知る手がかりとなる絵葉書は、千代田区では特に重要な歴史資料のひとつになります。



### ○丸の内ビルディング

大正12年(1923)三菱合資会社の桜井小太郎の設計により、東京駅の前に竣工しました。地上8階地下1階の昭和戦前期最大のビルとして「東洋一のビル」と言われ、その威容は多くの人々を驚かせました。



### ○日比谷公園

日比谷公園は、明治36年(1903)6月に開園しました。ドイツ式を基本に、当時珍しい噴水やベンチ、ガス灯や花壇などが設けられ、開園当日は多くの人々が殺到しました。日本初の都市公園に対する注目の高さが、日比谷公園の絵葉書製作につながったとみられます。

## (2) 当時の時事を知ることができる

古い絵葉書を見ると、風景のほかにも、仕事の様子や工場など、実に多様なものが題材として取り上げられています。これは絵葉書がメディアとしての役割を担っていたためです。絵葉書は新聞や雑誌と比べて編集作業が不要なため、速報性に優れた媒体でした。

メディアという役割を踏まえた上で絵葉書資料を見ると、他愛のない題材であっても、その時何が起きたのか、人々がどういうことに興味を持っていたのか、当時の時事や人々の関心を読み取ることができます。絵葉書は題材となった背景を探ることで、当時の社会状況を知ることができる歴史資料にもなります。

## (3) 暮らしを知ることができる

写真の中には建物以外にも、そこで暮らす沢山人々の姿も映っています。そこには当時の人々の衣服や髪形、使用している道具など様々な生活実態を示す情報が含まれています。これらを細かく観察することで当時の暮らしぶりや、年代による生活の変化など、民俗を調べるための資料として活用することができます。

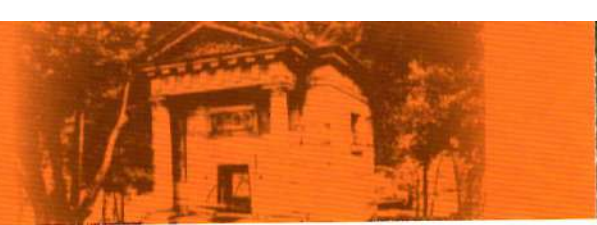


### ○浅草仲見世通り

昭和初期の浅草寺門前の仲見世通りをとらえた画像です。参道にあふれる人々からは、当時の服装や髪形をうかがうことができ、当時の暮らしぶりの一端を知ることができます。

絵葉書資料は様々な情報を持っており、近代以降の歴史や文化の調査には欠かせない重要な資料群でもあります。千代田区では今後も貴重な資料の収集を継続し、区にとって必要となる資料の保存や活用に取り組んでいきます。

(学芸員 山田将之)



令和元年は、日本において近代測量が開始されて150年になります。そのため、文化庁は、「水準原点」を、令和元年12月27日付で、国の重要文化財（建造物）に指定しました。※1



国指定重要文化財（建造物） 水準原点  
千代田区永田町一丁目一番国会前庭洋式庭園内

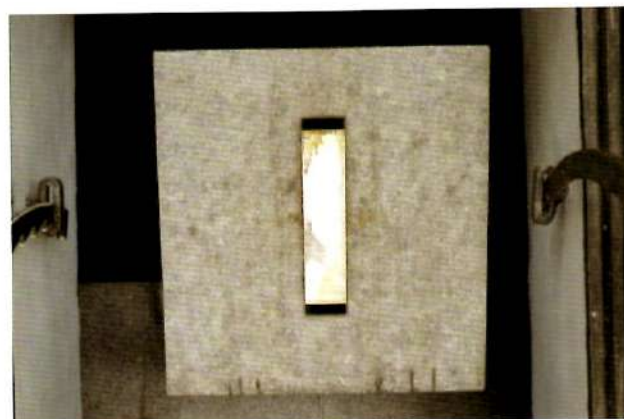
水準原点とは、近代に定められた海拔（標高）の高さを決めるための基準点のことです。経緯度原点とともに、近代地図測量にとって、重要な場所となっています。

そもそも日本の近代地図測量の始まりは明治時代で、欧米の測量技術が導入されました。当初はフランス式でしたが、のちプロイセン式（ドイツ式）を採用します。当初は内務省地理局、のち陸軍参謀本部の陸地測量部が担当しました。水準測量は、ある高さを基準に、高低差を比較しながら進めていくもので、その基準となる高さを定める必要がありました。そのため、麹町区永田町一丁目の参謀本部構内であったこの場所、現在の国会前庭に基点となる「水準原点」が定められました。

その後明治24年（1891）5月に、水晶で目盛板を備えた棒状の水準原点が製作されます。当時の隅田川河口であった霊岸島（現在の中央区新川）の満干潮位を6年余り計測して平均値を出し、これを基準に

水準原点の目盛りの高さを、海拔24.5mと決めました。現在は関東大震災と東日本大震災の影響で、目盛りの高さは24.39mになっています。なお水晶の水準原点の基礎は、地下10m余りに及ぶコンクリート及び煉瓦造となっています。

※1 水準原点は、平成4年4月に区指定文化財になった後、平成8年3月に、都指定文化財となっていました。



水晶の水準原点

また、明治24年(1891)6月に、この水準原点を保護するための建造物として石造平屋建でローマ風神殿建築に倣ったトスカナ式オーダー※2をもつ建物が完成しました。設計者は、工部大学校造家学科の第一期生でコンドルに師事した4人の日本人建築家の一人、佐立七次郎です。佐立が手がけた建造物は、日本郵船小樽支店の建物と水準原点の2棟のみが現存していますが、今回の指定によって2棟とも重要文化財(建造物)になりました。

今回指定の対象となったのは、①水準原点本体、②掩蓋(標庫の建物)です。さらに、附として、附属標石5基のうち、水準原点・掩蓋と同時期に設けられた甲・乙・丙の3基も指定されました。附属標石とは、水準原点が万が一失われたとき、原点を復元するための附属点のことです。いずれも、地下に設置されているため、見ることはできません。

なお今回の指定の対象とはなりませんでしたが、関連するものとして、次のようなものもあります。



附 附属標石 一等水準原点(甲)

- (1) 円柱石・水準原点の真正面にあり、測量機械を設置して見通すためのもの、上部の中央に金属鉸があります。



円柱石

- (2) 附属標石の丁号・水準原点から東側に斜面を下ったところにあり、唯一、地上に設置されている標石
- (3) 附属標石の戌号・水準原点から北北西側で、衆議院憲政記念館の建物近くにある標石

水準原点は、近代地図測量の発祥の歴史を示す大切な文化財です。

(学芸員 高木知己)

## 測量の日

国土地理院では、測量に関する知識の普及と啓発をはかるため、平成元年に、6月3日を「測量の日」と決めました(現在の測量法は、昭和24年6月3日に公布されています)。そして、より一層、理解を深めてもらうため、5月中頃には水準原点の内部公開を、また、6月上旬には「くらしと測量地図展」の開催をしています(令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で残念ながら中止となりました)。

※2 独立円柱と梁で構成される古典主義建築のこと。

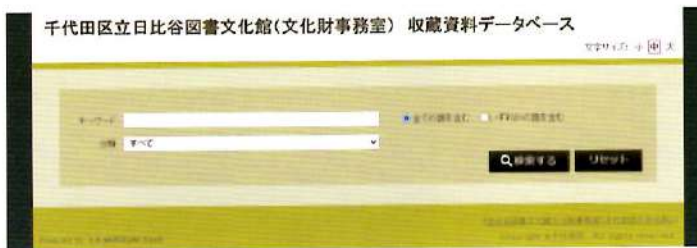
# 収蔵資料のデータベース化を始めました。 ークラウド型管理システムー

令和2年7月、クラウド型収蔵品管理システムを導入しました。このシステムは、膨大な収蔵資料の検索を容易にするだけでなく、誰でも資料の基本情報や画像をインターネット上で閲覧することができます。

千代田区教育委員会が所蔵する資料は、歴史・民俗資料だけで約4万点超。現段階ではまだ一部公開にとどまっていますが、将来的にはすべての資料データをシステムに登録し、公開・普及を進めていきます。

以下のURLからデータベースにアクセスすると、千代田区指定文化財77件（令和2年4月時点）のデータをご覧いただけます。

\*データベースURL：<http://jmapps.ne.jp/chiyoda/>



データベースストップページ



検索結果イメージ



今川小路共同建築関係文書（令和2年4月指定）の紹介ページ

※ブラウザの設定等により見え方が異なる場合があります。

（学芸員 篠原杏奈）



都営地下鉄 ●三田線「内幸町駅」徒歩3分  
 東京メトロ ●千代田線  
 ●日比谷線 「霞ヶ関駅」徒歩5分  
 ●丸ノ内線  
 駐車場 当施設に駐車場はありません。

開館時間 月～金 10時～22時  
 土 10時～19時  
 日・祝 10時～17時  
 文化財事務局 月～金 10時～18時  
 ※企画展・特別展の観覧時間は異なる場合があります。  
 休館日 毎月第3月曜日

文化財ニュース 第22号 (3,000部)  
 発行日 令和2年11月16日  
 編集・発行 千代田区立日比谷図書館 文化財事務局  
 〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4  
 TEL:03-3502-3348 FAX:03-3502-3361  
 HP:<http://edo-chiyoda.jp>  
 e-mail:[bunkashinkou@city.chiyoda.lg.jp](mailto:bunkashinkou@city.chiyoda.lg.jp)

印刷 株式会社報光社